

家庭菜園が出发点



農業にひかれ就農、先輩農家が指導

【山梨】バン格拉デシュ出身のラハマン・モハメド・文字部さん(54)は、中央市で特産のトウモロコシ「ゴールドラッシュ」や「ドルチェドリーム」を主軸に米とナスを栽培している。

ラハマンさんが来日したのは35年前の19歳のとき。日本文化に興味を持ったのがきっかけだという。長く県内の企業で働き、30代後半から家庭菜園で野菜作り始め、農業と出合った。近所の農家のアドバイスもあり、どんどん農業に魅了

35年前バン格拉デシュから来日

ラハマンさん 農地拡大めざす

その後、49歳で本格的に就農。1年目は思うようにいかなかったが、先輩農家の指導を仰いで作業時期や工程を見直し、安定した収穫ができるようになった。52歳のときに㈱ラハマン農園を設立。現在ではパートとアルバイトを常時5人雇用し、今後は農地を拡大する計画だ。

本年度はトウモロコシを約9万本収穫する予定で、JA出荷や同市のふるさと納税返礼品にも登録した。「将来的には海外からの実習生を受け入れるようにしたい」とラハマンさんは笑顔で語る。

中央市

NATIONAL AGRICULTURAL NEWS

全国農業新聞

2023年(令和5年)

7月21日 金曜日
月4回金曜日発行

首都圏